

第2回 インドの気候

インドと日本の気候の違いを一言で表現すれば、四季の日本に対して、インドは雨期・乾期の2季ということができよう。6月に突如モンスーンが襲ってくるのである。多雨で名高いボンベイ（ムンバイ）は、年平均降水量 2,099mm で、乾期最後の月の5月の平均降水量 16mm から6月に一挙に 520mm、7月にはさらに 709mm までに増える。そして9月の 297mm から10月の 88mm をへて11月には 21mm に激減し乾期に入る。年平均降水量の少ない（715mm）のニューデリーでさえ、5月 8mm、6月 65mm、そして7月 211mm と急増すし、我々が滞在したラクノウ、サンディラ地区に最も近い観測地点のアラハバードでは年平均降水量 942mm、5月 14mm、6月 83mm、7月 278mm となる（『理科年表』2001による）。インドの降水量図を図1に示した。

雨期の雨はその降り方が半端ではない。突然振りだして、突然止むという、日本で言えば夕立のような降り方が繰り返される。私は、最近インドへ出かけるとき傘を持っていかない。というのは乾期の時はほとんど雨が降らないし、雨期に出かけても折りたたみの傘では役に立たないくらいたたきつけられ、役に立たないからである。雨宿りに限ると割り切っている。1、2時間待てば晴れるので我慢できるし、むしろその待ち時間に聞き取りが思わぬ成果が得られることがある。2004年8月末にバングラデシュの農村で豪雨に遭い、生地屋の店先で雨宿りしていた。雨宿りと外人に対する物珍しさなのか大勢の人にとり囲まれた。初歩的なベンガル語会話を楽しむ中でヒンドゥー教徒を見つけ、片っ端から、その人の村に居住するカースト別戸数を聞き取った。センサスには村別の宗教別戸数はあるが、カースト別戸数は載せられていないので、貴重な資料になると思う。

乾期にはほとんど雨が降らないから、それを見込んだ乾期限定の地場産業が成立する。雨期が終わるとガンジスの大デルタ地帯ににわか煙突が立ち出す。これはデルタの豊富な粘土を原料にして煉瓦作りが行われるのだが、その焼成のための煙突である。ダッカからミルザプールの国道沿いでは今や冬（乾期）の風物詩になっている風景である。ただ、製造業者に聞いてみると、気まぐれに一雨来たら、露天で日干し中の煉瓦が打撃をうけ、使い物にならなくなるという。

インドは暑いという印象が強い。事実南インドでは一年中暑い。マドラス（チェンナイ）の月別平均気温で最低気温が1月の 24.5 度という暑さである。ところが、インドは広く、北インドにおいては冬はかなり冷え込む。ニューデリーおよびアラハバードでの最低気温は1月に 14.3 度および 16 度まで下がる。日本の名古屋（3.6 度）や富山（2.1 度）と比べれば、はるかに暖かいのだが、「寒波襲来、死者5名」と新聞記事に出たりする。寒波といっても5、6度くらいなのだが、それでも亡くなる人が出るというのは、路上生活者がいかに多いかということをも物語っている。私自身、ロダウラのバジュパイ家で簡易ベットと毛布1枚という恵まれない条件ではあったが、セーターにスキー用のヤッケをかぶり、かつ靴下をはいて床についた記憶があり、インドは寒いという印象が強烈に残っている。

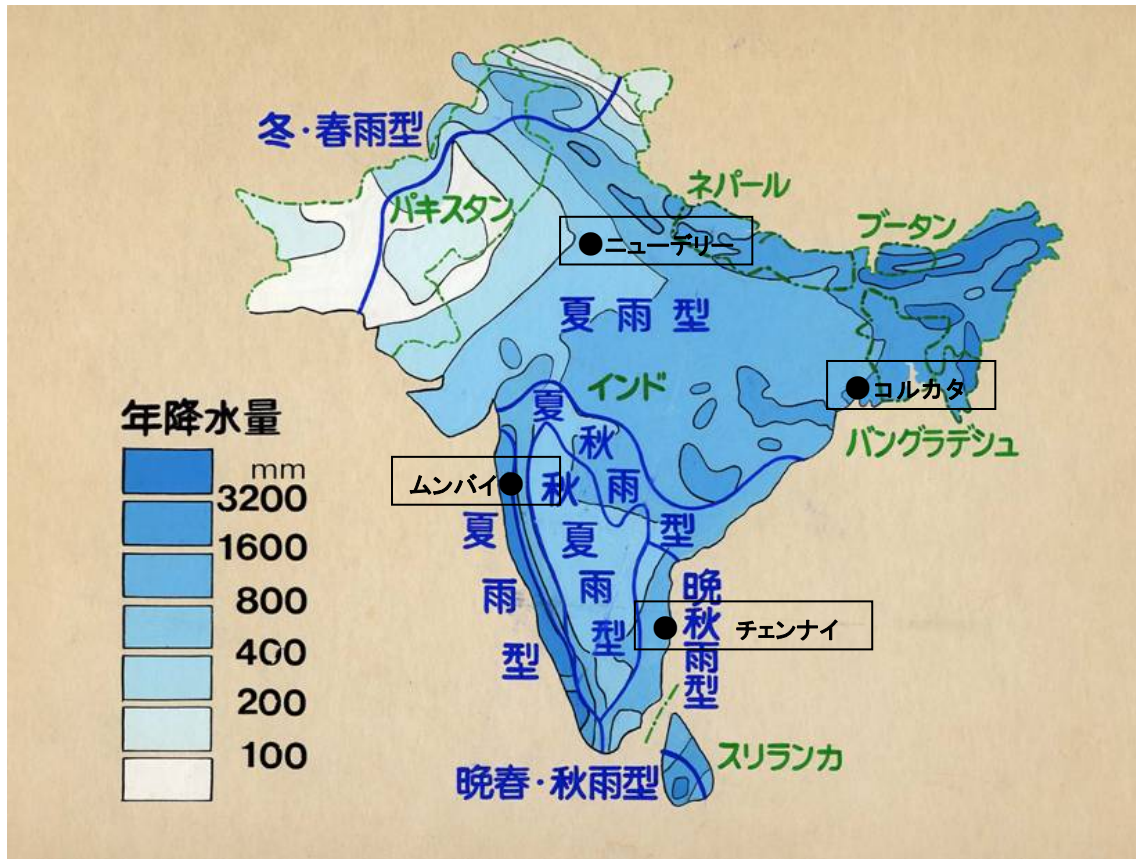


図1 インドの降水量図

表1 インド主要都市と富山・名古屋の気温・降水量

気温													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
ニューデリー	14.3	17.3	22.9	29.1	33.5	34.5	31.2	29.9	29.3	25.9	20.2	15.7	25.3
コルカタ(カルカッタ)	20.2	23	27.9	30.1	31.1	30.4	29.1	29.1	29.2	27.9	24	20.6	26.8
ムンバイ(ボンベイ)	24.3	24.9	26.9	28.7	29.9	29.1	27.5	27.1	27.4	28.3	27.5	25.9	27.3
チェンナイ(マドラス)	24.5	25.8	27.9	30.5	32.7	32.5	30.7	30.1	29.7	28.1	25.9	24.6	28.6
富山	2.1	2.4	5.5	11.5	16.5	20.4	24.6	25.8	21.5	15.6	10.3	5.3	13.5
名古屋	3.6	4.3	7.5	13.5	18	21.7	25.6	26.8	22.8	16.9	11.4	6.2	14.9

降水量													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ニューデリー	25	22	17	7	8	65	211	173	150	31	1	5	715
コルカタ(カルカッタ)	13	24	27	43	121	259	301	306	290	160	35	3	1582
ムンバイ(ボンベイ)	2	1	0	3	16	520	709	419	297	88	21	2	2078
チェンナイ(マドラス)	24	7	15	25	52	53	83	124	118	267	308	157	1233
富山	279	182	152	134	124	190	241	196	229	166	184	270	2344
名古屋	50	61	98	153	162	210	218	170	209	121	74	48	1575

(『理科年表』2001による)

* 1ヶ月に700mmも降るムンバイよりも年降水量では富山の方が多い!



写真2 雨季のバングラデシュ

大洪水中にミルジャプール町内を散歩する(87.8.22)。



写真3 乾季のバングラデシュ①

ダッカ～ミルジャプールの幹線道路沿いにレンガ焼きの煙突が立ち並ぶ(99.3.17)。



写真4 乾季のバングラデシュ②

不良品のレンガ砕きは女性、子供の重要な賃稼ぎ(99.3.17)。